

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2022年度版)

3 すべての人に
健康と福祉を



USM（マレーシア科学大学）研修報告



活動の概要	<p>USM短期研修は「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」の一貫です。同プログラムは、すべての研究科のあらゆる研究分野の博士後期課程・博士課程学生を対象に選抜を行い、経済的な支援を行うとともに、学生個々の着実・堅実な研究力に上乘せる形で「プレゼン力」「交渉力」「合意形成力」「行動力」というスキルセットを獲得させること（エンパワメント）を目的としています。今年度より始まった本研修では、現在まだ顕在化していない問題も含めた、都市が抱えるさまざまな社会課題を通じてそれぞれの研究課題を俯瞰的にとらえる能力を鍛え、幅広い視野と情報発信力・交渉力を涵養することで、個々人のキャリア開発につなげるとともに、未来都市共創に資する新たな博士人材を創造することを目的としています。</p> <p>参加したのは、医学研究科から上木あかねさん、薬学研究科から藤田みのりさんの2名で、人間文化研究科の曾我幸代准教授と林敏博寄附講座准教授が引率しました。参加者は、事前にSDGsを学ぶ事前研修を受け、持続可能な社会づくりとは何かを考える機会をもったうえで、2022年9月12日から19日にかけて、マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に赴き、約1週間の研修を受けました。この実施にあたっては、USMのJCC（Japan Culture Centre）の協力を受けています。</p> <p>USMでは、マレーシアが抱える文化・医療・難民・貧困・飢餓等の社会課題について、社会学部や生物学部の教授陣が講義をしてくださったり、難民が通う学校でのボランティア活動を行ったり、大学内にあるイスラム開発管理センター、麻薬センターや海洋センターを視察して、どのような問題を扱い、研究しているのかの概要説明を伺ったりしました。いくつかの講義や視察、市内のフィールドワークを経て、参加者は自らの専門知を生かして、最終プレゼンテーションを行いました。</p> <p>本研修の詳細については、別添の「USM研修レポート」をご確認ください。</p> <p>【参加した学生の感想（一部抜粋）】</p> <p>研修では、マレーシアの歴史や貧困に関する講義の聴講、難民学校でのボランティア活動、研究施設訪問（ハラル、薬学、海洋学）などを行いました。今回の研修を通じて、人種や宗教が違っていても争うことなくお互いを尊重しあうマレーシアの多文化共生について理解を深めました。最終日のプレゼンテーションは、日本が今後多民族・多宗教国家になった場合、管理栄養士として私にできることは何かについて考える良い機会となりました。</p>
活動の時期	2022年9月

[USM研修レポート（PDF ファイル 0.52MB）](#)



難民学校の子どもたち



Centre for Drug Researchのラボ見学



センター長、事務官、パティとのお別れ会

ようこそ！名市大へ！～新規採用研修医へ熱いメッセージが寄せられました～



活動の概要	<p>2022年4月8日、初期研修医オリエンテーションの総括としてシンポジウムを開催しました。大ホールに出席した名市大病院の研修医約40名の他に、東部・西部医療センターの研修医や学生を含め約100名がオンラインで参加しました。</p> <p>第1部はジェネレーション・フォーラムで、卒後15年目後の新進気鋭の先生方が自らの歩んできた道を語りながら、研修医たちに進むべき道の決め方をアドバイスしました。</p> <p>第2部はフェアウェル・フォーラムで、郡健二郎理事長、浅井清文学長、高橋智医学研究科長、間瀬光人附属病院長から人生の岐路に立ったときの経験談が語られました。</p> <p>なごやかな中にも心に響くメッセージを頂き、研修医たちは夢をもって4月からの研修生活を歩み始めました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年4月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.44

救急車のラッピングをデザインしました



活動の概要	<p>東部医療センターと西部医療センターの救急部から、芸術工学研究科の鈴木賢一教授の研究室に「地域に愛される救急車のラッピングデザイン」の依頼がありました。救急車としての緊急性と地域医療を担う信頼感と愛着をどうデザインするか、現場の職員の皆さんの意見を伺いながらゼミ学生3名と手探りの検討を行い、東部は同じ区内の動物園の人気者、レッサーパンダとロゴマークを用いた蝶々の組合せ、西部（赤ちゃんにやさしい病院）はカンガルーケアから着想を得てカンガルーと2011年に取り組んだヘルスクエアアートに用いた三角形の組合せでラッピングデザインを制作しました。街中でレッサーパンダとカンガルーを見かけたら、あたたかく見守ってください。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年5月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.44

PICo project 2022 本格始動！



活動の概要	<p>本学を中心とした医療系学生と愛知県、愛知県周辺の医療者・教育施設が相互に意見を出し合い、医療系学生に新しい教育プログラムを提供し、新しい学びの場を作り出すためのプロジェクトである「PICo project (※)」が2022年度もスタートします。</p> <p>このプロジェクトは、医学生の学びたいという意欲に対して、後進により良い医療を提供してほしいという医療者の熱意で2021年度より発足しました。</p> <p>2022年度は医学生に加え、薬学部生、看護学部生を対象としたプログラムも加わり、医療系学生全体に向けたより魅力あるPICo projectに進化しました。</p> <p>詳細は PICo projectのWEBサイトをご確認ください。</p> <p>(※) PICo: Passion = 学ぶ側・教える側の熱意、Innovation = 既存の枠にとらわれない革新、Co-Creation = 学生・指導の先生方・施設による“共創”</p>
活動の時期	2022年度
関連URL	PICo project WEBサイト



書籍「名市大ブックス」シリーズ 第11・12巻を発売



活動の概要	<p>2022年8月23日、2020年10月より発行を続けている本学教員ら執筆の書籍シリーズ「名市大ブックス」の第11巻、第12巻を出版・発売しました。</p> <p>第11巻「いきいき心臓とはつらつ生活」は、日本人の死因上位でもある心臓の疾患や血管病に焦点を当て、最新の研究や手術などの治療法について、執筆者の各分野の専門知識をわかりやすく解説しています。第12巻「女性の新しいライフスタイルと最新医療」は、人生における女性特有の身体的・精神的な疾患を取り上げ、正しい知識と心構えを身につけることで豊かで健康な人生を送ることを推進するための1冊です。</p> <p>書店やインターネットからお買い求めいただけます。ぜひご一読ください。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.45

クラスター発生時の看護師派遣事業における感謝状が贈呈されました



活動の概要	<p>県内で、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した時、当院感染制御室の看護師が専門家として当該施設に出向き、実践・指導を行ったことで早期収束に向かいました。このことに愛知県看護協会から感謝状が贈られました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年6月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.45

「在宅リハビリテーションの活用法 ～元気で楽しい生活を続けていくために～」を開催



活動の概要	<p>2022年7月9日、医療法人寿会かわな病院リハビリテーション科科長の福田貴子先生をお招きし、「在宅リハビリテーションの活用法 ～元気で楽しい生活を続けていくために～」をテーマに地域連携セミナーを開催しました。元気で楽しい生活を続け、医療や介護が必要な状況に陥らないために、自身で取り入れやすい体操や歩き方と、運動を無理なく継続的に生活に取り入れるためのポイントについてご紹介いただきました。自分の体力を知るためのテスト、ストレッチ体操、筋力トレーニングについては、福田先生のご指導のもと実際に参加者の皆さまに体験いただきました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年7月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.45

ようこそ大学へ！プロジェクトを開催しました

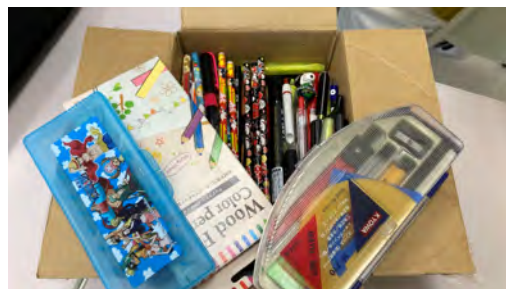


活動の概要	<p>2022年8月8日、名古屋市内の児童養護施設などで生活する子どもたちを大学へ招いて学習支援や進学への動機づけを目的とした大学体験企画「ようこそ大学へ！プロジェクト」を開催しました。当日は感染症対策のため午前・午後の二部制として、小学生から高校生の子どもたち合計78名が参加し、ボランティアの学生は、人文社会学部の学生102名が参加しました。また今年は、子どもたちが楽しみにしている学食体験を再開することができました。子どもたちはボランティア学生とペアになり、「一日名市大生」として実験体験や研究室訪問等を行いました。名古屋市からの依頼で始まった本イベントも今年で10年目を迎え、ボランティアの学生たち協力のもと、今年も参加した子どもたちの楽しそうな声を聞くことができました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.45（2022年9月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年8月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.45

Make the Future Bright through Education (本学SDGs アンバサダーの活動紹介)



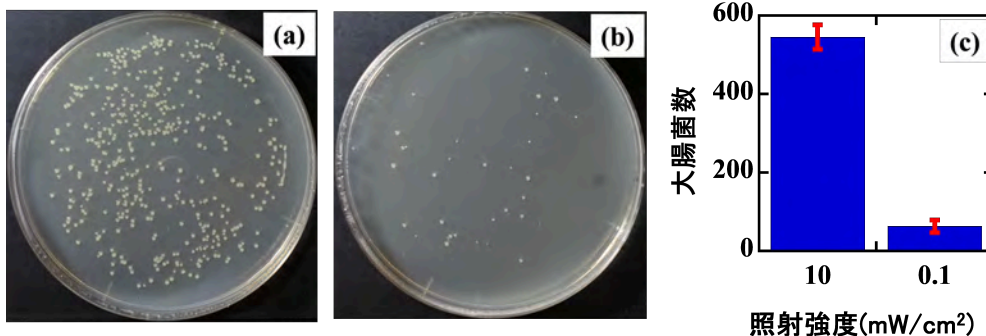
活動の概要	<p>【本学SDGsアンバサダーである学生グループ「NCU Time to Act Now」の活動紹介】</p> <p>①12月3日、私たちは港区の地域日本語教室「アウラ・ド・キューバ」のボランティアに参加しました。これは、「AE Raise Health / Environmental Awareness」という授業の一環で、SDGsに貢献するボランティアを行うというプロジェクトのもとで行われました。外国人労働者が多く滞在する港区の地域で開かれている日本語教室に講師として参加し、外国人の生徒の方に日本語の文法や単語、発音を教える一方で、コミュニケーションも多くなり、日本や海外の教育の現状について学びました。外国人の方に直接教育の現状について話を聞ける貴重な機会だったので、非常にいい経験になりました。</p> <p>②12月15日、私たちは「ECO Trading」という不用品を回収し、発展途上国に寄付している団体に文房具を郵送しました。この文房具は、ECO Tradingで仕分けされ、海外のリサイクルショップに送られ、現地で活用されます。貧困や技術不足でまともな勉強道具がなく十分に教育が受けられていない発展途上国の子どもたちに、微力ながら貢献できたのではないかと思います。</p>
活動の時期	September 2022 – January 2023
関連URL	NCU Time to Act Now Instagram account



数理モデルを用いた紫外線殺菌の基本原理に関する研究



活動の概要	<p>コロナウイルスを含む様々な病原性ウイルスや細菌を殺菌する手法として、薬液を利用しないで広範囲な殺菌が可能な紫外線殺菌技術が注目されています。この紫外線殺菌は、従来、照射線量（紫外線強度×時間）が同じであれば殺菌率は同じである、と考えられておりました。しかし、私たちの今までの研究において、この定説が成立しないことを、大腸菌を用いた紫外線殺菌実験で実証しました。具体的には、照射線量が一定の条件下で、紫外線照射強度を大きく変えて大腸菌の殺菌率を精密に評価してみると、紫外線強度が弱くて長時間殺菌した場合のほうが、紫外線強度が強くて短時間殺菌した場合よりも、殺菌効率が大きいことが判明しました。これら一連の実験結果を、数学の最先端手法である確率微分方程式を用いて解析することによって、新たな紫外線殺菌メカニズムの存在が明らかになりました。</p>
活動の時期	<p>2022年12月 論文発表。 2020年から2024年を研究開発期間として予定。</p>
関連URL	<p>https://www.nagoya-cu.ac.jp/press-news/202303031000/ https://www.nature.com/articles/s41598-022-26783-x</p>
researchmap URL	<p>https://researchmap.jp/read1253163</p>
関連する論文	<ul style="list-style-type: none"> • Kohmura, Y, Matsumoto, T. et al. Scientific Reports 10, 17805 (2020). • Tatsuno, I, Matsumoto, T. et al. Scientific Reports 11, 22310 (2021). • Matsumoto, T, Hasegawa, T. et al. Scientific Reports 12, 22588 (2022).
期待される効果・今後の展望	<p>同じ照射線量でも低強度の紫外線を長時間照射することで大きな殺菌効果を引き出せるという今回の知見は、紫外線殺菌時に人体への紫外線照射線量を低減できるため（1日に人体に浴びて良い紫外線照射線量は法律で規定されている）、今後の紫外線を用いた居住空間および病室の紫外線殺菌技術および装置開発に大きく貢献できるものと考えております。</p>
所属	<p>芸術工学研究科 産業イノベーションデザイン領域</p>
氏名	<p>松本 貴裕</p>
専門分野	<p>量子エレクトロニクス, 光物性, 真空ナノエレクトロニクス, フォトバイオロジー</p>



照射線量を 10 mJ/cm²（照射波長は265 nm）で一定にした場合の、大腸菌殺菌効果の紫外線強度依存性。(a) 紫外線強度10 mW/cm²で1 sの場合の大腸菌数（90%の殺菌率）、(b) 紫外線強度0.1 mW/cm²で100 sの場合の大腸菌数（99%の殺菌率）。(c)は(a)と(b)のプレートで計測された大腸菌数を棒グラフにしたもので(a)は約550個、(b)は60個。紫外線殺菌する前の大腸菌数は約6000個。

「ヘルスケアアート全国サミット2023 これからのヘルスケアアートを考える」を開催しました



	<p>2023年2月23日、本学の芸術工学研究科鈴木賢一教授が実行委員長を務めるなごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクトは、「ヘルスケアアート全国サミット2023 これからのヘルスケアアートを考える」を名古屋市立大学医学部附属東部医療センターで開催しました。</p> <p>ヘルスケアアートとは、健康で持続可能な社会と人々のウェルビーイングを目指し、アートを活用して医療福祉施設などの環境ストレスを軽減し、人々の絆と生きる力を引き出す取り組みです。本サミットでは、2018年度よりヘルスケア分野のアートマネジメント人材育成のために講座やワークショップを展開してきた締めくくりとして、これまで5年間の取り組みをふり振り返りながら、日本のヘルスケアアートの課題や展望について考えました。</p> <p>【第1部】 なごやヘルスケア・アートマネジメント推進事業の5年間の振り返りと日本におけるヘルスケアアートの現状</p> <ol style="list-style-type: none">鈴木賢一実行委員長より5年間の事業のふり振り返り (名古屋市立大学大学院教授、なごやヘルスケア・アートマネジメント推進事業実行委員長)受講生からの事業のふり振り返りとコメント<ul style="list-style-type: none">● 佐藤 寿憲 (高齢者リハビリ施設 作業療法士)● 馬場 千愛 (デザイナー、ホスピタルアーティスト)● 天野 将明 (京都府立医科大学医学部5年生)● 谷口 真紀 (デザイナー、専門学校講師)● 中野 安恵 (クリニック等の設計・空間デザイン)講師からの事業のふり振り返りとコメント<ul style="list-style-type: none">● 高野 真悟 (アーティスト)● 松嶋 麻子 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 救命救急センター長)● 由井 武人 (京都芸術大学 ホスピタルアートプロジェクト「HAPii+」担当講師)事業外部推進委員によるヘルスケアアートの現状や課題の整理<ul style="list-style-type: none">● 岩田 祐佳梨 (NPO法人チア・アート 理事長、筑波大学 研究員)● 篠原 佳則 (安井建築設計事務所 理事、NPO子ども健康フォーラム 理事)● 阿部 順子 (福山女学園大学生生活科学部 准教授)● 森口 ゆたか (美術家、近畿大学 教授、NPO法人アーツプロジェクト 副理事長) <p>【第2部】 ディスカッション「ヘルスケアアートの課題と展望」</p> <ol style="list-style-type: none">上野 淳先生・郡 健二郎先生・鈴木先生の鼎談 「アートの医療福祉分野への普及に向けて」<ul style="list-style-type: none">● 上野 淳 (東京都立大学 名誉教授、工学博士、元・社団法人日本医療福祉建築協会 会長)● 郡 健二郎 (名古屋市立大学 理事長、医学博士)● 鈴木 賢一 (名古屋市立大学大学院 教授、なごやヘルスケア・アートマネジメント推進事業実行委員長)文部科学省の加藤 敬先生による総括鈴木賢一実行委員長より「ヘルスケアアートの日」発表
活動の概要	
活動の時期	2023年2月
関連URL	<ul style="list-style-type: none">● 【イベント告知】ヘルスケアアート全国サミット2023 これからのヘルスケアアートを考える● 【全国サミット2023 第1部】事業5年間の振り返りと日本のヘルスケアアートの現状● 【全国サミット2023 第2部】ヘルスケアアートの課題と展望

SDGs IDEA 研究会を開催



<p>活動の概要</p>	<p>本学は、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2022」を名古屋市と共催しています。この活動の一環として、2022年12月14日に、SDGs IDEA 研究会を開催しました。</p> <p>当日は、SDGs IDEA FORUM 2022にエントリーしている名古屋市内の学生36名が参加しました。賛同企業による企業紹介、SDGs IDEA FORUM 2021最優秀賞受賞チーム（南山大学 ロバートゼミ「フードロス×教育」）によるプレゼンテーションの後、参加学生同士の交流会が行われ、1月15日提出期限のアイデアシート作成に向けた情報交換が行われました。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2022でアイデアを募集する4つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ジェンダー平等を実現する社会づくり ●地域コミュニティが活性化するまちづくり ●サステナブルな観光都市名古屋の実現 ●脱炭素社会をめざすまちづくり
<p>活動の時期</p>	<p>2022年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p>SDGs IDEA FORUM 2022 WEBサイト</p>



新型コロナウイルスワクチン接種大規模集団接種（名古屋市）への医療従事者派遣



活動の概要	<p>本学は、新型コロナウイルスワクチンの接種機会提供のため、名古屋市が実施した大規模集団接種へ本学より医師・歯科医師・看護師・薬剤師を延べ5,281人派遣し、予診・接種・薬剤管理等の業務に従事しました。</p> <p>●名古屋市瑞穂公園陸上競技場（パロマ瑞穂スタジアム） 令和3年7月1日に、新型コロナウイルスワクチンの接種（1・2回目接種）に対応するため、名古屋市瑞穂公園陸上競技場（パロマ瑞穂スタジアム）に大規模集団接種会場が開設され、同日から10月20日までの延べ112日間実施されました。 令和3年6月10日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ2,939人を派遣しました。</p> <p>●名古屋国際会議場 令和4年2月9日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3回目接種）に対応するため、名古屋国際会議場（国際会議室）に大規模集団接種会場が開設され、同日から3月13日までの延べ31日間実施されました。 令和4年1月11日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ362人を派遣しました。 本ワクチン接種事業への貢献に対し、令和3年10月21日に実施された閉場式において、名古屋市より本学に感謝状が贈呈されました。</p> <p>●日本ガイシフォーラム 令和4年4月15日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3・4回目接種）に対応するため、日本ガイシフォーラムに大規模集団接種会場が開設され、同日から7月17日までの延べ49日間（6月1日から7月7日まで休場し、7月8日に再開。）実施されました。 令和4年2月18日及び5月10日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ698人を派遣しました。</p> <p>●イオンタウン有松 令和4年7月20日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（4回目接種）に対応するため、イオンタウン有松に大規模集団接種会場が開設され、同日から8月31日までの延べ43日間実施された。 令和4年5月10日に名古屋市健康福祉局より医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ478人を派遣しました。 また、令和4年11月11日には、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（オミクロン株対応2価ワクチン）に対応するため、同会場に大規模集団接種会場が開設され、同日から令和5年1月31日までの延べ71日間実施されました。 令和4年9月9日及び10月31日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学から実施期間と同期間、延べ708人を派遣しました。</p> <p>●名古屋市立大学（看護学部棟1階） 令和4年12月3日に、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（オミクロン株対応2価ワクチン）に対応するため、本看護学部棟1階に接種会場が開設され、12月3日、4日、10日、11日、17日、18日、24日、25日の延べ8日間実施されました。 令和4年10月24日に名古屋市健康福祉局より本学に医療従事者の派遣依頼があり、本学の看護学部棟を接種会場として提供するとともに、本学から実施期間と同期間、延べ96人を派遣しました。</p>
活動の時期	2021年度（令和3年度）～2022年度（令和4年度）
関連URL	新型コロナウイルス感染症対応記録集 第4章 大学病院群